ITU-Tの活動状況

- ・直近の会合
 - •WTSA-12結果
 - ・第4回 災害FGの開催
 - ・第5回 カレイドスコープ会議
- ・各SG等の主な活動

2012年国際電気通信連合(ITU) 世界電気通信標準化総会(WTSA-12) の結果概要

概要

WTSAは、国際電気通信連合電気通信標準化部門(ITU-T)における標準化活動の方向性を決める最高意志決定会議として4年に1度開催される。今研究会期(2013~2016年)の研究課題の承認、具体的な標準化活動を行う研究委員会(SG: Study Group)の議長・副議長の任命、勧告・決議の承認等が行われた。

【日時・場所】 2012年11月20日(火)~29日(木) ドバイ(アラブ首長国連邦)

【議 題】 ITU-Tの勧告・決議・研究課題の承認、研究委員会(SG)議長・副議長の任命

【参加国】 105ヵ国から900名が出席。我が国からは32名が出席。

【対 処】 勧告案及び研究課題案については、情報通信審議会の一部答申(平成24年11月1日、情報 通信技術分科会ITU部会で決議)に基づき対処した。



会合の様子

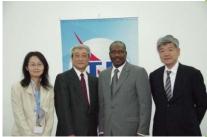
主な議論結果

(1) 今研究会期の研究課題の承認

我が国が中心となって推進している「将来網(新世代ネットワーク)」については、ITU-Tにおける国際標準化活動を効率的・効果的に推進するため、従来の1つの研究課題を3つの研究課題に分割し、研究体制が強化・拡充された。

- (2) 決議の承認
 - ・「レビュー委員会」の設置に関する決議 ITUーTの検討体制の見直しなどを検討する特別委員会「レビュー委員会」の設置について我が国から決議案を提案し 承認された。また、この委員会の議長として、我が国から前田洋一氏(情報通信技術委員会)が任命された。
 - ・ SDN(ソフトウェア定義ネットワーク)に関する決議 SDNに関する標準化活動を積極的に推進していくこと及び2013年にワークショップを開催する決議が採択された。
 - ITU-T活動におけるジェンダーに関する決議ITU-Tの活動における女性の参加を更に促すため、我が国から決議の改訂を提案し承認された。
- (3) SG議長、副議長の任命 2016年までの各SGにおける標準化活動を牽引する役職者として、津川清一氏(KDDI)、内藤悠史氏(三菱電機)の議長2名、副議長6名が選出された。
- (4) 勧告の承認 提案された6件の勧告案(SG3(料金・会計原則)の1件を含む)全てが承認された。





承認された主な決議

レビュー委員会の設置に関する決議

ITU-Tにおいては、情報通信技術の急速な進展や市場ニーズの変化にタイムリーに対応し、ISO/IEEE等の国際標準化機関・団体における検討状況等も考慮しながら国際標準化活動を進めていくことが必要となっている。このような中、他機関との連携、協力及びITU-Tにおける将来の国際標準化の検討体制等を議論するため、我が国から「レビュー委員会」を設置することを提案。

- 主な論点: レビュー委員会のITU-T内での位置付けを巡り、議論が繰り広げられた。
 - ・ 豪州、イラン、アラブ諸国は、レビュー委員会の設置を支持。
 - ・ RCC(旧ソ連諸国)、欧米、アフリカは、新たな委員会の設置に消極的。議論を進める内、TSAGの下に設置する妥協案に移行。
- 結 論: 長時間の議論の結果、基本的に我が国の提案が認められ、以下の結論で決議が承認された。
 - ・ WTSAが設置する委員会とする。レビュー委員会はTSAGと連携して活動を行うが、報告書はTSAGを経由してWTSAに内容を修正することなく提出する。
 - ・ レビュー委員会議長は、TSAGのマネジメントチーム(TSAG議長・副議長で構成)に加わり、TSAGとの密な連携を図る。
 - ・ 地域レベルでの検討を促進するための、地域グループを設置できる。

SDNに関する決議

ITU-TにおけるSDNの国際標準化活動について、技術課題(要求条件、アーキテクチャ、QoS、セキュリティ等)、他の標準化機関との連携、戦略ビジョンの策定、産業界との意見交換等を促進するため、APT(アジア太平洋電気通信共同体)共同提案として提案。

- 〇 主な論点
 - ・ APTはSG13(将来網を担当)に限らず、関連する全SGを対象に、SDNの国際標準化活動を促進させるものであり、ITUの活動の可視化も期待できるため、決議の 策定を支持。中国は、FG(Focus Group)の設置を希望したが、他国はFG設置による勧告化作業の遅延を懸念。
 - ・ 英、米、独は、SG13の研究課題として既に活動しており、作業の重複が発生するため、決議の必要性が無いと疑問を示した。
- 〇 結 論

アドホック会合において協議した結果、原案を一部修正したものが全体会合に提出され、承認された。なお、中国が提案していたSDNに関するFGの設置については同意が得られず、2013年中にワークショップを開催することで代替された。

ジェンダーに関する決議(決議55の改訂提案)

ITU-Tの活動における女性の参加促進に関する決議について、我が国から改訂を提案。

- 〇 結 論
- 我が国の提案に加えて、アルゼンチン、ブラジルから共同で改定案が提案され調整の上、両方の提案を反映した改定案が承認。
- ・ 2010年の国連女性機関(UN Women)設立を踏まえた決議の現行化と、女性のITU-T活動への参加を広く促進する趣旨の内容のため、意見の対立は無かった。

我が国から任命されたSG議長・副議長等

SG等	活動内容	役職	氏名(所属)	備考
レビュー 委員会	ITU-Tの将来の検討体制、他の標準化機関との連携	議長	前田 洋一(TTC)	新任
SG3	料金及び会計原則	議長	津川 清一(KDDI)	新任
SG16	マルチメディア符号化、システム及びアプリケーション	議長	内藤 悠史(三菱電機)	再任
SG9	映像・音声伝送及び統合型広帯域ケーブル網	副議長	宮地 悟史(KDDI)	再任
SG11	信号要求、プロトコル及び試験仕様	副議長	釼吉 薫(NEC)	再任
SG12	性能、サービス品質及びユーザー体感品質	副議長	高橋 玲(NTT)	再任
SG13	移動及びNGNを含む将来網	副議長	後藤 良則(NTT)	新任
SG15	光伝送網及びアクセス網基盤	副議長	荒木 則幸(NTT)	新任
SG17	セキュリティ	副議長	中尾 康二(KDDI)	再任
S G 3 アジア・オセアニア 地域グループ	アジア太平洋、中近東地域における国際電気通信料 金関係の研究	副議長	松田 康典(KDDI)	新任

電気通信標準化部門における今研究会期の研究体制

全権委員会議PP

最高意思決定機関

(4年毎に開催)

電気通信標準化部門:ITU-T

世界電気通信標準化総会 WTSA

研究課題設定、勧告の承認

(4年毎に開催)

研究委員会:SG

SG2

サービス提供の運用側面及び電気通信管理

議長 ギニナ(エジプト)

サービス規定・定義、ナンバーリング、アドレシング、ルーティング関連

SG12

性能、サービス品質(QoS)及びユーザー体感品質(QoE)

<mark>/</mark> 議長 アシャムファ(ガーナ)

全ての端末、ネットワーク及びサービスのQoS及びQoE関連

SG3

料金と会計原則

議長 津川 清一(KDDI)

計算料金制度改革、清算原則関連

SG13

移動及びNGNを含む将来網

議長 リー(韓)

移動及びNGNを含む将来網の要求条件、アーキテクチャ、評価、 融合関連

SG5

環境と気候変動

議長 ゼッダム(仏)

網及び装置保護、電磁環境の影響に対する防護、ICTと気候変動関連

SG15

光伝送網及びアクセス網基盤

議長 トルゥーブリッジ(米)

伝送網及びアクセス網基盤、システム、装置、光ファイバー及びケーブル関連

SG9

映像・音声及び統合型広帯域ケーブル網

議長 ウェブスター(米)

統合型広帯域ケーブルネットワーク及び映像・音声伝送

SG16

マルチメディア符号化、システム及びアプリケーション

議長 内藤 悠史(三菱電機)

NGN等を含む既存・将来網のサービスのためのユビキタスアプリケーション 及びマルチメディア関連

SG11

信号要求、プロトコル及び試験仕様

議長 フェン(中)

IP網、NGN等の信号及びプロトコル並びにNGN等の試験仕様関連

SG17

セキュリティ

議長 クレマー(露)

サイバーセキュリティ、スパム対策及びID管理等

レビュー委員会

RevCom

議長 前田 洋一((一社)情報通信技術委員会))

ITU-Tの検討体制の見直しを検討

TSAG

電気通信標準化アドバイザリグループ

議長 グレーシー(加)

ITU-Tの活動の作業方法、優先事項、計画_

今研究会期における各研究委員会の議長・副議長

RevCom	レビュー委員会	
議長	前田 洋一(情報通信技術委員会)	日本
	Mr Ki-Shik PARK	韓国
	Mr. Jim Mcfee	カナダ
515# E	Musab Abdullah	バーレーン
副議長	Rainer Liebler	ドイツ
	Fabien Mbeng Ekogha	ガボン
	Albert Nalbandian	アルメニア
TSAG 電	気通信アドバイザリグループ	****
議長	Mr Bruce GRACIE	Canada
	Mr Fabio BIGI	イタリア
	Mr Mohammad GHEYATH	UAE
L	Mr Vladimir Markovich MINKIN	ロシア
副議長	Mr Matano NDARO	ケニア
	Ms Monique MORROW	
	Ms Weiling XU	<u> </u>
SG2 サー	ービス提供の運用側面及び電気通信 ^を	
議長	Mr Sherif GUINENA	エシブト
H7X IX	Mr Kun-Young AHN	 韓国
	Mr Abdullah AL-MUBADAL	サウジアラビア
	Mr Saif BIN GHELAITA	UAE
	Mr Nazim JAFAROV	アセ゛ルハ゛イシ゛ャン
副議長	Mr James KILABA	タンサーニア
	Mr Bruno RAMOS	ブラジル
	Mr Phil RUSHTON	_ <i>/ </i>
	Ms Jie ZHANG	 中国
SG3 料金	E MIS DIE ZHANG	中国
議長	津川 清一(KDDI)	日本
成又	Ms Biendjui Joséphine ADOU	コートシ゛ホ゛ワール
	Mr Facundo Fernández BEGNI	アルセンチン
	Mr Byoung Nam LEE	韓国
副議長	Mr Leslie MARTINKOVICS	米国
	Mr Raynold MFUNGAHEMA	タンサ゛ニア
	Mr Ahmed SAID	エジプト
	Mr Dominique WURGES	フランス
	Mr Alexandr YAKOVENKO	ロシア
	意と気候変動 <u></u>	
議長	Mr Ahmed ZEDDAM	フランス
	Mr Tariq ALAMRI	サウジアラビア
	Mr Nasser ALMARZOUQI	UAE
=1=# =	Mr Héctor CARRIL	アルセンチン
副議長	Mr Sam Young CHUNG	韓国
	Mr Flavio CUCCHIETTI	イタリア
	Mr Keith DICKERSON	英国
	Ms Fatoumata S. DICKO	マリ

Mr Josef OPITZ ドイツ 中国 SG9 映像・音声伝送及び統合型広帯域ケーブル網 議長 Mr Arthur WEBSTER 米国			
Mr Josef OPITZ		Mr Guy-Michel KOUAKOU	コートシ゛ホ゛ワール
Mr Li XIAO 中国 SG9 映像・音声伝送及び統合型広帯域ケーブル網 議長 Mr Arthur WEBSTER 米国 宮地 悟史(KDDI) 日本 Mr Antoine BOUSTANI レパンク Mr Ayanzhan Shulembaevich BULDYBAYEV Mr Habib TALL ギニア Mr Dong WANG 中国 SG11 信号要求、プロトコル及び試験仕様 議長 Mr Wei FENG 中国 到吉 薫(NEC) 日本 Mr Isaac Boateng ガーナ Mr Martin BRAND 韓国 Mr ShinーGak KANG 韓国 Mr Dmitry TARASOV ロシア Mr Horacio Villalobos TLATEMPA メキシコ SG12 性能、サービス品質及びユーザ体感品質 Mr Kwame BAAH-ACHEAMFUOR カーナ Mr Paul BARRETT 英国 Mr Yincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED スータンク Mr Hyung-soo KIM 韓国 Mr Al MORTON 米国 Mr Al MORTON 米国 Mr Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 Mr ChaeーSub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Ohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカンタ・ Mr Amid CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エシブト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・フ Mr Konstantin TROFIMOV ロシア			
議長 Mr Arthur WEBSTER 米国 宮地 悟史(KDDI) 日本 Mr Antoine BOUSTANI レハノン Mr Ayanzhan Shulembaevich BULDYBAYEV Mr Habib TALL ボニア 中国 中国 日本 中国 日本 中国 日本 日本 日本 日本 日	副議長	Mr Li XIAO	中国
議長 Mr Arthur WEBSTER 米国 宮地 悟史(KDDI) 日本 Mr Antoine BOUSTANI レハノン Mr Ayanzhan Shulembaevich BULDYBAYEV Mr Habib TALL ボニア 中国 中国 日本 中国 日本 中国 日本 日本 日本 日本 日	SG9 映	像・音声伝送及び統合型広帯域ケー	ブル網
宮地 悟史(KDDI) 日本 Mr Antoine BOUSTANI レバノン Mr Ayanzhan Shulembaevich BULDYBAYEV Mr Habib TALL ギニア Mr Dong WANG 中国 SG11 信号要求、プロトコル及び試験仕様 様長 Mr Wei FENG 日本 Mr Isaac Boateng ガーナ Mr Martin BRAND 森中国 Mr Martin BRAND 森中国 Mr Mortin BRAND 森中国 Mr Horacio Villalobos TLATEMPA オシコ SG12 性能、サービス品質及びユーザ体感品質 Mr Kwame BAAH-ACHEAMFUOR カ・ナ 高橋 弥(NTT) 日本 Mr Yoincent BARRIAC ブランス Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ヴカンダ Mr Ahmed EL RAGHY エジブト Mr Ahmed EL RAGHY エジブト Mr Constantin TROFIMOV ロシア Mr Slaheddine MAAREF チュニジア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア	議長	T .	
Mr Antoine BOUSTANI レバン Mr Ayanzhan Shulembaevich BULDYBAYEV Mr Habib TALL ギニア Mr Dong WANG 中国 SG11 信号要求、プロトコル及び試験仕様 映画 数吉 薫(NEC) 日本 Mr Isaac Boateng ガーナ Mr Martin BRAND 寮州 Mr Shin-Gak KANG 韓国 Mr Dmitry TARASOV ロシア Mr Horacio Villalobos TLATEMPA メキシコ SG12 性能、サービス品質及びユーザ体感品質 Mr Vincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED スータン Mr Hyung-soo KIM Mr Al MORTON 米国 Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロツコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 接長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Hyung-soo KIM 株国 Mr Al MORTON 米国 Mr Hassan TALIB エロツコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 様長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 Mr Mr Simon BUGABA ウカッタ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エシップト Mr Ahmed EL RAGHY エシップト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア		宮地 悟史(KDDI)	日本
Wr Habib TALL ギニア Mr Dong WANG 中国 SG11 信号要求、プロトコル及び試験仕様 議長 Mr Wei FENG 中国 知吉 薫(NEC) 日本 Mr Isaac Boateng ガーナ Mr Martin BRAND 豪州 Mr Shin-Gak KANG 韓国 Mr Dmitry TARASOV ロシア Mr Horacio Villalobos TLATEMPA メキシコ SG12 性能、サービス品質及びユーザ体感品質 Mr Kwame BAAH-ACHEAMFUOR カーナ Mr Paul BARRETT 英国 Mr Vincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED スーダン Mr Hyung-soo KIM 韓国 Mr AI MORTON 米国 Mr Feng QI 中国 Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロツコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 Mr Simon BUGABA ウカンダ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エシプト Mr Almortin TROFIMOV ロシア			レバノン
Mr Habib TALL ギニア Mr Dong WANG 中国 SG11 信号要求、プロトコル及び試験仕様 議長 Mr Wei FENG 中国 釼吉 薫(NEC) 日本 Mr Isaac Boateng ガーナ Mr Martin BRAND 蒙州 Mr Shin-Gak KANG 韓国 Mr Dmitry TARASOV ロシア Mr Horacio Villalobos TLATEMPA メキシコ SG12 性能、サービス品質及びユーザ体感品質 Mr Kwame BAAH-ACHEAMFUOR カーナ Mr Paul BARRETT 英国 Mr Vincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED スーダン Mr Hyung-soo KIM 韓国 Mr Al MORTON 米国 Mr Feng QI 中国 Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 Mr Simon BUGABA ウカンダ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エシブト Mr Ahmed EL RAGHY エシブト Mr Ahmed EL RAGHY エシブト Mr Alman LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシブア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア	副議長	-	カサ゛フスタン
Mr Dong WANG 中国 SG11 信号要求、プロトコル及び試験仕様 識長 Mr Wei FENG 中国			ギニア
SG11 信号要求、プロトコル及び試験仕様 議長 Mr Wei FENG 中国			
議長 Mr Wei FENG 中国	SG11		
部議長 Wr Isaac Boateng	議長		中国
Mr Isaac Boateng ガーナ Mr Martin BRAND 豪州 Mr Shin-Gak KANG 韓国 Mr Dmitry TARASOV ロシア Mr Horacio Villalobos TLATEMPA メキシコ SG12 性能、サービス品質及びユーザ体感品質 議長 Mr Kwame BAAH-ACHEAMFUOR カーナ 高橋 玲(NTT) 日本 Mr Paul BARRETT 英国 Mr Vincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED スータ・ン Mr Hyung-soo KIM 韓国 Mr Al MORTON 米国 Mr Feng QI 中国 Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Simon BUGABA ウカ・ンタ・ Mr Ahmed EL RAGHY エシ・プト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・フ Mr Konstantin TROFIMOV ロシア			
Mr Martin BRAND			ガーナ
Wr Shin-Gak KANG 韓国 Mr Dmitry TARASOV ロシア Mr Horacio Villalobos TLATEMPA メキシコ SG12 性能、サービス品質及びユーザ体感品質 議長 Mr Kwame BAAH-ACHEAMFUOR カーナ 高橋 玲(NTT) 日本 Mr Paul BARRETT 英国 Mr Vincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED スータ・ン Mr Hyung-soo KIM 韓国 Mr Al MORTON 米国 Mr Feng QI 中国 Mr José Guadalupe Rojas スタ・カーストション RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカーンタ・ Mr Ahmed EL RAGHY エシ・プト Mr Ahmed EL RAGHY エシ・プト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア			
Mr Dmitry TARASOV	副議長		
Mr Horacio Villalobos TLATEMPA メキシコ SG12 性能、サービス品質及びユーザ体感品質 議長 Mr Kwame BAAH-ACHEAMFUOR カーナ 高橋 玲(NTT) 日本 Mr Paul BARRETT 英国 Mr Vincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED スータ・ン Mr Hyung-soo KIM 韓国 Mr AI MORTON 米国 Mr Feng QI 中国 Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ 州 Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカ・ンタ・ Mr Almed EL RAGHY エシ・フ・ト Mr Ahmed EL RAGHY エシ・フ・ト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア			
議長 Mr Kwame BAAH-ACHEAMFUOR カーナ 高橋 玲(NTT) 日本 Mr Paul BARRETT 英国 Mr Vincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED スータ・ン Mr Hyung-soo KIM Mr AI MORTON		•	
議長 Mr Kwame BAAH-ACHEAMFUOR カーナ 高橋 玲(NTT) 日本 Mr Paul BARRETT 英国 Mr Vincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED スータ・ン Mr Hyung-soo KIM Mr AI MORTON	SG12 '	上 生能、サービス品質及びユーザ体感品	質
高橋 玲(NTT) Mr Paul BARRETT 英国 Mr Vincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED Ar Hyung-soo KIM Mr Al MORTON 株国 Mr Feng QI Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) Mr Mohamed AL RAMSI Mr Jamil CHAWKI Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY Mr Mohamed AL RAMSI Mr Leo LEHMANN Ms Huilan LU Mr Slaheddine MAAREF Mr Konstantin TROFIMOV Dラブ			
Mr Paul BARRETT 英国 Mr Vincent BARRIAC フランス Mr Gamal Amin ELSAYED スータ・ン Mr Hyung-soo KIM 韓国 Mr Al MORTON 米国 Mr Feng QI 中国 Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エシ・プト Mr Ahmed EL RAGHY エシ・プト Mr Heo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア		高橋 玲(NTT)	
Mr Vincent BARRIAC			
Mr Gamal Amin ELSAYED スーダン Mr Hyung-soo KIM 韓国 Mr Al MORTON 米国 Mr Feng QI 中国 Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカンダ・ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エジプト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア		Mr Vincent BARRIAC	
Wr Hyung-soo KIM Mr Al MORTON 米国 Mr Feng QI 中国 Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカンタ・ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エシ・プト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア			
Mr Al MORTON 米国 Mr Feng QI 中国 Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカンタ・ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エジプト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア	=1= * =		
Mr Feng QI 中国 Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB モロッコ SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカンタ・ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エシブト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア	副議長		米国
Mr José Guadalupe Rojas RAMÍREZ Mr Hassan TALIB SG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) Mr Mohamed AL RAMSI Mr Simon BUGABA がカンダ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エジプト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU Mr Slaheddine MAAREF チュニシア Mr Konstantin TROFIMOV			
RG13 移動及びNGNを含む将来網 議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカンタ・ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エシブト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア		Mr José Guadalupe Rojas	メキシコ
議長 Mr Chae-Sub LEE 韓国 後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカンタ・ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エジプト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア		Mr Hassan TALIB	モロッコ
後藤 良則(NTT) 日本 Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカンタ・ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エジプト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア	SG13	移動及びNGNを含む将来網	
Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカンタ・ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エジ・プト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア	議長		韓国
Mr Mohamed AL RAMSI UAE Mr Simon BUGABA ウカンタ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エジブト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア			
Mr Simon BUGABA ウカンタ・ Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エジ・プト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア			UAE
Mr Jamil CHAWKI フランス Mr Ahmed EL RAGHY エジプト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア		14 01 0110404	
Mr Ahmed EL RAGHY エジプト Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア		Mr Jamil CHAWKI	
副議長 Mr Leo LEHMANN スイス Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア			エジプト
Ms Huilan LU 米国 Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア	副議長		
Mr Slaheddine MAAREF チュニシ・ア Mr Konstantin TROFIMOV ロシア			
Mr Konstantin TROFIMOV ロシア		Mr Slaheddine MAAREF	
		Mr Konstantin TROFIMOV	
		Mr Heyuan XU	中国

	Mr Slaheddine MAAREF	チュニジア
SG13	Mr Konstantin TROFIMOV	ロシア
副議長	Mr Heyuan XU	<u>ロファーー</u> 中国
SG15 3	と伝送網及びアクセス網基盤	<u> </u>
jog io j 議長	Mr Steve TROWBRIDGE	米国
utx 1/2	荒木 則幸(NTT)	日本
	Mr Ghani ABBAS	<u>英国</u>
	Mr Fahad ALFALLAJ	サウジアラビア
	Mr Viktor Katok	ウクライナ
副議長	Mr Dan LI	中国
	Mr Francesco MONTALTI	イタリア
	Mr Atilio Eduardo REGGIANI	ブラシ゛ル
	Mr Jeong-Dong RYOO	韓国
	Mr Helmut SCHINK	ドイツ
SG16 ¬	アルチメディア符号化、システム及びアプリ	ノケーション
議長	内藤 悠史(三菱電機)	日本
	Mr Gaby DANIEL	レバノン
	Mr Mohannad EL-MEGHARBEL	エシブト
	Mr Khusan ISAEV	ウス゛ヘ゛キスタン
副議長	Mr Seong-Ho JEONG	韓国
m 1 m 2 2 C	Mr Paul JONES	米国
	Mr Harald KULLMANN	ドイツ
	Mr Zhong LUO	中国
	Mr Ntsibane NTLATLAPA	南アフリカ
	<u> マキュリティ</u>	
議長	Mr Arkadiy KREMER	ロシア
	中尾 康二(KDDI)	日本
	Mr Khalid BELHOUL	米国
	Mr Antonio C GUIMARÃES TEIXEIRA	ブラシ゛ル
	Mr Mohamed Mohamed Khair	スーダン
副議長	Almobark ELHAJ	
	Mr Zhaoji LIN	中国
	Mr Patrick MWESIGWA	ウガンダ
	Mr Mario Germán Fromow RANGEL	メキシコ
	Mr Sacid SARIKAYA	トルコ
	Mr Heung-Youl YOUM	韓国
	ジア太平洋地域グループ	+4.5
議長	Mr Byoung Nam LEE 韓国	
副議長	松田 康典(KDDI)	日本
H 1 H 3 Z C	Ms Otgonchimeg BUYANJARGAL	モンコ゛ル

承認された勧告

提案元 SG	勧告番号	勧告対象	概要
3	D.195 [改訂勧告]	国際電気通信サービスの精算のための時間計算	国際電話の料金等を、接続先電気通信事業者に請求する際、計算書送付及 びその内容についての異議申し立て期間を、料金が発生した日の月末から50 日を原則30日に短縮するもの。
13	Y.2770 [新勧告]	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	G.8113.1 [新勧告]	高速・大容量データ転送プロ トコルの保守運用機能	既存専用線網の技術を利用した高速・大容量通信を行うため、高速・大容量 データ転送プロトコルとして、既存の回線交換網に必要な保守運用機能等を記述した新たなプロトコルを規定したもの。
15	G.8113.2 [新勧告]	高速・大容量データ転送プロ トコルの保守運用機能	既存パケット網の技術との互換性を保ちながら高速・大容量通信を行うため、高速・大容量データ転送プロトコルとして、上記G.8113.1とほぼ同等な保守運用機能等を規定したもの。
15	G.9980 [新勧告]	ホームネットワーク端末遠隔 管理技術	スマートグリッドを構成するHEMSに接続された宅内の個々の装置をブロード バンド回線経由で遠隔制御する技術に関する勧告案。ユーザ管理、品質管理、 障害診断、ソフトウェア・ファームウェア管理等の機能を規定したもの。
	G.9901 [新勧告]	スマートグリッド用電力線通 信技術の技術的条件	スマートグリッドに利用されるPLC(Power Line Communications:電力線を利用した通信)技術の関連標準を体系的に整理、見直した勧告案。PLC全般に共通する技術的条件、方式毎に異なる技術的条件(電力特性等)をそれぞれ別個の標準として規定し、複数の方式が共存しても利用可能な環境を整備するもの。

ITU-T 災害対応Focus Group※第4回会合結果

概要

XITU-T FG-DR&NRR: ITU-T Focus Group on Disaster Relief System, Network Resilience and Recovery

2011年10月のCTO会合の際に、KDDIが東日本大震災の経験から災害時通信確保に関する標準化活動を提案したことから、 2012年1月のTSAGにおいてFocus Group設置が合意された(議長にNTT荒木則幸氏、副議長の一人にNEC江川尚志氏が就任)。 2012年6月以降、3回の会合が開催されており、今回は第4回会合。

【日 時】2013年2月6日(水)~7日(木)

【場 所】東京(新宿 京王プラザホテル)

【参加国】 12ヵ国から84名が出席(リモート参加を含む)。我が国からは63名が出席。

【概要】電気通信の観点から、災害救援システム/アプリケーション及びネットワークの復旧・回復に関する要求条件等を検討。 今回、我が国から災害時の情報伝達基盤技術に関する研究開発案件等、13件の寄与文書を入力。

主な議論結果

- 1日目午後の特別セッションにおいて、IETF(輻輳時優先制御等)、東京大学地震研究所(津波観測システム)、NTTドコモ(緊急速報エリアメール及び多様な通信・放送手段を連携させた多層的な災害情報伝達システムの研究開発)から、プレゼンテーションやデモンストレーションが行われ、一部を要求条件等の成果文書に反映していくこととなった。
- 我が国の災害関連の取組について、総務省予算※による研究開発案件を含む多数の寄与文書が入力され、一部をoverview、要求条件等の成果文書に反映していくこととなった。
 - 携帯災害伝言板・音声メッセージサービスの要求条件(KDDI)
 - SaaS安否確認システム(NTT西日本)
 - リソースユニット構築・再構成技術の研究開発(NTT)
 - 耐災害ネットワーク管理制御技術の研究開発(KDDI研究所、NEC)
 - 災害時におけるアマチュア無線の活用(JARL)

- 障がい者向け緊急通報システム(TTC)
- 災害時に有効な衛星ネットワークの研究開発 (東北大学)
- 簡易な操作で設置可能な小型地球局(VSAT)の 研究開発(スカパーJSAT)

仙台テクニカルツアー

※H23・3次補正予算「情報通信ネットワークの耐災害性強化のための研究開発」 H24予算「災害時の情報伝達基盤技術に関する研究開発」

■ 2月8日(金)、会合参加者(外国人出席者10名を含む)を対象に、東日本大震災の 被災地(七ケ浜、野蒜)、NICT耐災害ICT研究センター及び災害関連研究開発 プロジェクトの視察を実施。

(今後のスケジュール)

次回第5回会合は今年5月頃、タイにおいて開催予定(うち1日はワークショップを予定)。

6月4~7日開催予定のTSAGに、Focus Groupの検討状況を報告するとともに、1年間の活動期間の延長を提案予定。





第5回ITU カレイドスコープ会議 開催結果

概要

ITUカレイドスコープ会議※は、ITU活動へのアカデミアとの連携強化を目的に、2008年から毎年世界各地で開催されており、今回第5回を日本(京都大学)にて開催。

※ 将来に向け様々に変貌する革新技術を自由に展望するという意図から"万華鏡"を意味するKaleidoscopeから命名。

【日 時】 2013年4月22日(月)~24日(水) (4月25日(木)はITU-T標準化教育ワークショップ・アドホックグループを開催)

【場 所】京都大学 百周年時計台記念館 国際交流ホール

【参加国】 20ヵ国から180名が出席。我が国からは139名が出席。

主な結果

- 今回会合テーマ"Building Sustainable Communities(持続可能な社会の創造)"について、査読を通過した論文33件の講演発表及びポスターセッションが行われ、最終日に最優秀賞等を表彰。
- ✓ 最優秀賞:櫻井美穂子氏(日本·慶應義塾大学)
 - "Sustaining life during the early stages of disaster relief with a Frugal Information System: Learning from the Great East Japan Earthquake"
- ✓ 2位: Mr. Phillip H Griffin (米国·Booz Allen Hamilton社)、3位: Ms. Martina Gerst (中国·精華大学)
- 展示会場ではNICT、NTT、日立、三菱電機、沖電気、名工大、ITU-T(SG16)によるNGNやIPTV関係の展示が行われ、高い関心を集めた。
- 4月25日(木)、ITU・電子情報通信学会・GISFI等の共催による標準化教育ワークショップを開催。 午後は、標準化教育に関するTSB局長のAd-hoc会合を開催。

GISFI: Global ICT Standardization Forum for India





(今後のスケジュール)

▶ 次回Kaleidoscope Conference(第6回)は、2014年6月上旬にサンクトペテルブルグ(ロシア)において開催予定。

各研究委員会の活動状況

ITU-T SG等における日本からの役職者等一覧

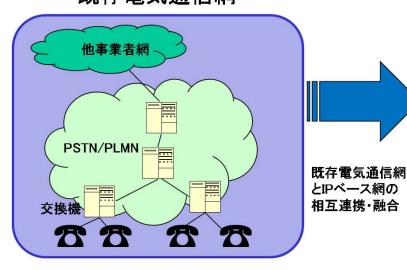
<u>SG</u>	<u>日本から</u>	のSG議長/副議長	ロ木から	のいは 単一回 業 目		3 * 4	NO 0=4 AM /=		10	_
			日本から	のWP議長/副議長	<u> </u>	14/	からのラポータ(R)/ア	ソンエー	(トフホータ(<u>AR)</u>
RevCom	議長	前田 洋一(TTC)								
SG 2 サービス提供の運用側面及び電気通信番号管理										
SG 3 料金·会計原則	議長	津川清一(KDDI)	(RG-AO副)	議長 松田康典(KDDI)) (未定)			(未定)(5/27-31	第1回会 [·]	今開催)	
SG 5 環境と気候変動			WP2 議	長 服部光男(NTT)	Q.2 Q.8 Q.10		小林隆一(NTT) C	Q.18 AR	奧川雄一郎 端谷隆文(富 近藤芳展(N	富士通)
SG 9 映像・音声伝送及び統合型広帯域ケーブル網	副議長	宮地悟史(KDDI)	WP1 議	長 宮地悟史(KDDI)	Q.1 Q.3 Q.4 Q.5	R AR R R	重信真也(JLabos) C 武智秀(NHK) C	Q.6 R Q.10 R Q.11 R Q.13 R	宮地悟史(씨 高橋知彦(씨 酒澤茂之(씨 宮地悟史(씨	KDDI) KDDI)
SG 11 信号要件・プロトコル及び試験仕様	副議長	釼吉薫(NEC)	WP2 共	同議長 釼吉薫(NEC)	Q.2 Q.4		姫野秀雄(NEC) Matthew Lopez(NEC) Q.	14 R !	姫野秀雄(NEG	C)
SG 12 性能、サービス品質及びユーザ体感品質	副議長	高橋玲(NTT)	WP3 副	議長 高橋玲(NTT)	Q.13	R	高橋玲(NTT)			
SG 13 移動及びNGNを含む将来網	副議長	後藤良則(NTT)	WP1 共同	議長 後藤良則(NTT)	Q.14	R	江川尚志(NEC) Q.:	15 R 札	公原大典(日立	Z)
SG 15 光伝送網及びアクセス網基盤	副議長	荒木則幸(NTT)		(未定)			(未定) (7/1-12 第1	回会合	開催予定)	
SG 16 マルチメディア符号化、システム及びアプリケーション	議長	内藤悠史(三菱電機)	WP2 副i	義長 川森雅仁(NTT)	Q.10 Q.13	R R	, , , ,	14 R 28 R	谷川和法(NE 川森雅仁(NT	•
SG 17 セキュリティ	副議長	中尾康二(KDDI)			Q.3 Q.4	R R	永沼美保(ラック) Q. 門林雄基(NICT) Q.		三宅優(KDD) 武智洋(ラック	
TSAG										
∆ =1	議長	3	議長	4			ラポータ(R)		21	-
合計	副議長	6	副議長	2			アソシエートラポータ(AF	R)	7	

第2研究委員会(SG2)「電気通信番号管理、ネットワーク管理」

SG2では、ネットワークのIP化やサービスの多様化・グローバル化の進展における課題として、電気通信番号の利活用やネットワーク管理の在り方等に関する標準化を進めている。

番号ポータビリティについても、番号ポータビリティデータベース実現方式について寄書を提出しており、今後の検討においても積極的に貢献していく。

既存電気通信網



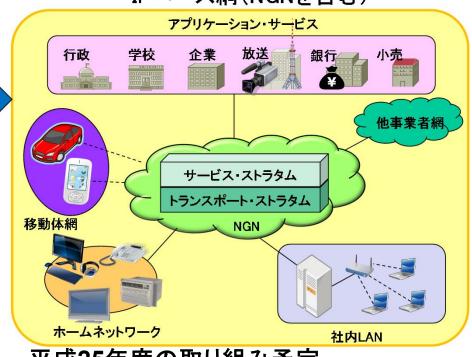
ビジネスとのつながり

ネットワークのIP化やサービスの多様化・グローバル化に対応し、新たなビジネス拡大のためには、有限希少な電気通信番号の利活用の在り方について標準化を進めていくことが必要。

平成24年度の活動概要

- ・国内番号計画の通知に関する勧告(E.129)について、我が国からの番号ポータビリティ関連項目の追加に関する寄書提案により、改定・承認がされた。
- ・番号の不正利用について、我が国からの事例紹介寄書により、対策の重要性の認識がさらに高まり、具体的なアクションの検討が開始された。

IPベース網(NGNを含む)



平成25年度の取り組み予定

- ・電気通信番号体系に関する勧告E.164の補足文書2について、番号ポータビリティの利用実態を基にIP(NGN含む)化を考慮した拡張を図る。
- ・災害救援通信提供のためのサービス及び運用の枠組みについては、 Disaster Relief/Early warning and Network resilience and recoveryの リードSGとして、より具体的な研究課題を提案する。
- ・網のIP化による将来番号の検討、IIPアドレスの課題、クラウド管理等に関して、議論の進展に応じて対応する。

WP	課題	課題タイトル
	<u>Q1/2</u>	Application of numbering, naming, addressing and identification plans for fixed and mobile telecommunication services
	<u>Q2/2</u>	Routing and interworking plan for fixed and mobile networks
WP1	<u>Q3/2</u>	Service and operational aspects of telecommunications, including service definition
	<u>Q4/2</u>	Human factors related issues for improvement of the quality of life through international telecommunications
W/D2	Q5/2	Requirements, priorities and planning for telecommunication management and OAM Recommendations
WP2	Q6/2	Management architecture and security
	Q7/2	Interface specifications and specification methodology

第5研究委員会(SG5)「環境と気候変動」WP1/WP2

- SG5 WP1/WP2では雷・過電圧や電磁妨害波に対する通信設備の保護、サービス品質の向上を目的として標準化を実施。
- WP1では、雷・過電圧に対する防護素子や過電圧耐力、接地方式の検討および送電線・電鉄からの電磁誘導対策を検討。
- WP2では、電磁波に対する人体防護、宅内NWや通信装置のEMC、電磁波セキュリティ(攻撃・情報漏洩)について検討。

■主な研究課題

- 過電圧耐力の試験方法の見直し
- HGW機器の内線ポート間の過電圧試験レベル
- 光ファイバ支持線への電磁誘導対策法
- 無線基地局からの電波の人体ばく露に関する測定・計算法
- ホームネットワークのEMC評価・対策法

■ビジネスとのつながり

通信システムのEMC課題や人体安全、電磁波セキュリティ等に 関する合理的な勧告制定に寄与することにより、安定で信頼性 の高い通信ネットワークインフラを構築するための技術を提供し、 国内の情報通信サービスの普及と機器販売を促進するとともに、 海外への製品輸出も有利とし、関連産業の発展につなげる。

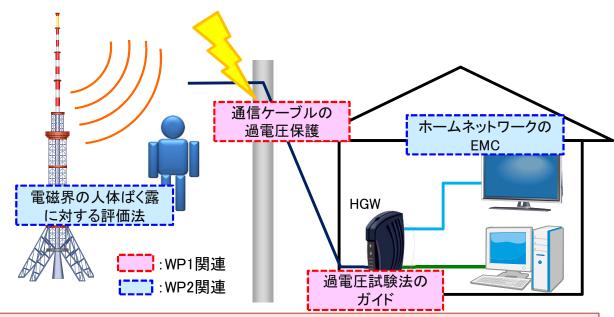
■平成24年度の活動概要

雷・過電圧分野(WP1)においては、過電圧試験を正確に行うための「レジスティビリティガイド」が新規に制定され、関連する勧告K.44の改定が行われた。また、直撃雷および誘導雷に対する通信ケーブルの保護を規定した勧告K.46、勧告K.47が改定され、重複する勧告K.25が削除された。EMC・電磁波分野(WP2)では、電磁界の人体ばく露に対する評価等の手引き書である勧告K.91(K.guide)が新規に制定された。また、ホームネットワークの電磁環境及び妨害波測定方法に関する勧告K.92(K.henv)およびブロードバンドサービスの広帯域妨害波に対するイミュニティ試験に関する勧告K.93(K.im_bb)の2件の新規勧告案が制定された。

■平成25年度の取り組み予定

雷・過電圧分野(WP1)においては、HGWの内線ポート間の過電圧規定やアイソレーショントランスに関する規定、HVDC(高電圧直流給電)に関する 規定を重要課題と位置づけ、議論を行っていく。また、EMC・電磁波分野(WP2)では、通信装置近傍での無線機器利用を想定したイミュニティ試験法 や、近年顕在化している150kHz以下の伝導妨害波に対する妨害波・イミュニティ規定について、日本が積極的に議論を主導していく。

【H24年度の活動概要】



第5研究委員会(SG5)「環境と気候変動」WP3

- OSG5 WP3では、ICTの利活用による環境負荷低減およびICT機器等の省エネ、省資源化の観点から標準化を進めている。
- ○重要課題として、ICTによる環境影響評価手法としての勧告案の検討(課題18)、データセンター等の省エネに係るベストプラクティス等の作成(課題17)、高電圧直流給電(HVDC)の仕様、構成、性能等に関する検討(課題19)及びエコレーティングの検証、付加価値評価(課題16)を行っている。

ビジネスとのつながり

- ・データセンターの省エネに係るベストプラクティスの他、ネットワーク、機器、アーキテクチャのベストプラクティスの提示
- ・各社個別の方法で算出していたICT機器およびサービスの利活用による環境影響算出方 法の統一基準の提供
- ・データセンター等における給電システムおよび機器の仕様の提示
- ・リサイクル、省エネ等の環境配慮ICT製品の指標の提示

平成24年度の活動概要

- ・データセンターにおける高電圧直流給電の実証実験成果を中心に寄書提案を行い、 2012年5月に「直流給電システムのインターフェース仕様(L.1200)」が勧告となった。
- ・ICT機器と空調機器の連携制御によるデータセンタの省電力化に関する提案を行い、「グリーンデータセンターのベストプラクティス(L.1300)」(2011年3月ITU-T勧告化)の改定に盛り込まれることで合意された。
- •「ICT製品・ネットワーク・サービスの環境影響評価手法(L.1410)」(2012年3月ITU-T勧告化)を具体化するための提案を行い、L.1410 Supplement文書作成で合意された。

平成25年度の取り組み予定

- ・今後も継続的にデータセンターの省エネ手法等に関する寄書提案を行っていく。
- ・L.1410に関するベストプラクティス等の提案を行い、日本が積極的に議論をリードしていくとともに、都市、国レベルの環境影響評価手法について、 各国の動向を踏まえながら議論の進展に寄与していく。
- ・エコレーティングに関する議論は、当面、携帯端末に関する検証の予定であり、各国の動向を注視しながら検討を進めていく。

SG5の研究課題(2013~2016年)<19件>

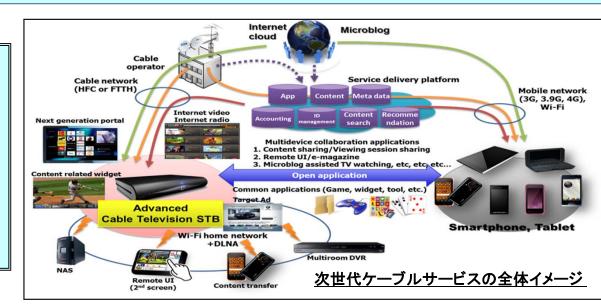
WP	課題	課題タイトル
Plenary	Q12/5	Guides and terminology on environment and climate change
	Q1/5	Copper cables, networks and fibre-optic connection hardware for broadband access
	Q2/5	Protective components and assemblies
WP1	Q3/5	Interference to telecommunication networks due to power systems and electrified railway systems
	Q4/5	Resistibility and safety in telecommunications
	Q5/5	Lightning protection and earthing of telecommunication systems
	<u>Q6/5</u>	EMC issues arising from the convergence of IT and communication equipment
	<u>Q7/5</u>	Human exposure to electromagnetic fields (EMFs) due to radio systems and mobile equipment
	<u>Q8/5</u>	EMC issues in home networks
WP2	Q9/5	Generic and product family EMC recommendations for telecommunication equipment
	Q10/5	Security of telecommunication and information systems concerning the electromagnetic environment
	Q11/5	EMC requirements for the information society
	Q13/5	Environmental impact reduction including e-waste
	Q14/5	Setting up a low-cost sustainable telecommunication infrastructure for rural communications in developing countries
MADO	Q15/5	ICTs and adaptation to the effects of climate change
WP3	Q16/5	Leveraging and enhancing the ICT environmental sustainability
	Q17/5	Energy efficiency for the ICT sector and harmonization of environmental standards
	Q18/5	Methodologies for the assessment of environmental impact of ICT
	Q19/5	Power feeding systems

第9研究委員会(SG9)「統合型広帯域ケーブル網及び映像・音声伝送」

- ・通信網並びにケーブル網による映像・音声伝送、アプリケーション、品質評価の標準化を担当。
- ・SG16及びITU-R SG6と密接に連携をとりながら、勧告化作業を実施。
- ・ケーブル業界の意見を幅広く収集するため、フォーカスグループ(Smart Cable TV)を設置し活動中。

主な研究課題

- ・高度デジタルケーブルテレビ伝送 デジタルケーブルテレビでのIP/パケットを用いた配信にお ける要求条件等を検討。
- ・アプリケーション制御フレームワーク受信機とアプリケーションの関係を決定づけるアーキテクチャ等を検討。
- ・映像品質評価 主観的及び客観的評価方法についての検討。



ビジネスとのつながり

高度ケーブルテレビアプリケーションの提供、パーソナライズドサービス配信基盤の確立、映像伝送の運用効率化、HFC(Hybrid Fiber Coax)インフラの高度利用

平成24年度の活動概要

- ・2012年6月、我が国から提案していた次世代STBの技術仕様が勧告化された。
- ・2013年2月、我が国から提案していたハイブリッドキャストのアプリケーション制御フレームワークアーキテクチャが勧告化された。

平成25年度の取り組み予定

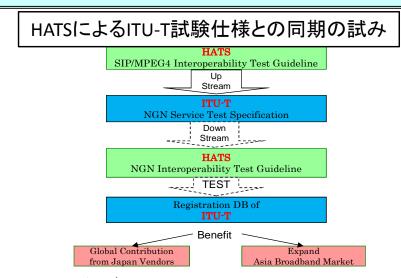
・高度デジタルケーブルテレビ伝送、アプリケーション制御フレームワーク技術詳細、4K/8K映像の階層伝送方式等の勧告化に向けた活動を予定。

1/

SG9の研究課題(2013~2016年)<13件>

WP	課題	課題タイトル
Plenary	Q13/9	Work programme, coordination and planning
	<u>Q1/9</u>	Transmission of television and sound programme signal for contribution, primary distribution and secondary distribution
	<u>Q2/9</u>	Measurement and control of the end-to-end quality of service (QoS) for advanced television technologies, from image acquisition to rendering, in contribution, primary distribution and secondary distribution networks
WP1	Q3/9	Methods and practices for conditional access, protection against unauthorized copying and against unauthorized redistribution ("redistribution control" for digital cable television distribution to the home)
	<u>Q6/9</u>	Digital programme delivery controls for multiplexing, switching and insertion in compressed bit streams
	<u>Q11/9</u>	Transmission of multichannel analogue and/or digital television signals over optical access networks
	Q12/9	Objective and subjective methods for evaluating perceptual audiovisual quality in multimedia services within the terms of Study Group 9
	Q4/9	Software components application programming interfaces (APIs), frameworks and overall software architecture for advanced content distribution services within the scope of Study Group 9
	Q5/9	Functional requirements for residential gateway and set-top box for the reception of advanced content distribution services
WP2	<u>Q7/9</u>	Cable television delivery of digital services and applications that use Internet protocol (IP) and/or packet-based data
	Q8/9	The IP enabled multimedia applications and services for cable television networks enabled by converged platforms
	Q9/9	Requirements for advanced service capabilities for broadband cable home networks
	Q10/9	Requirements, methods, and interfaces of the advanced service platforms to enhance the delivery of sound, television, and other multimedia interactive services over cable television network

SG11では、信号要求条件及びプロトコルを主な検討課題としており、アプリケーション、セッション、ベアラ、リソース、サービス及びセキュリティを制御するプロトコルとプロトコルアーキテクチャの検討を行っているほか、NGN VoIP、TV電話等マルチメディアサービスの準拠性試験・相互接続性試験などの検討も行っている。



NGN VoIPサービス試験仕様

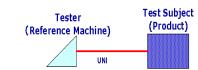


Figure 3 General Configuration of NIT for the VoIP Service testing



Figure 4 General Configuration of VoIP interoperability testing of the End-to-End service

SG11会合(前会期第7回) 提出寄書より

ビジネスとのつながり

NGNの相互接続性確保等についてITU-Tの場で検討を行うことにより、欧米の状況を把握することができるだけでなく、発展途上国との接点を持つことにより、グローバルな市場に向けた製品開発が可能となる。

平成24年度の活動概要

- ・NGNについて、NGNサービス試験リストに関する改訂勧告案(Q.3945)、認証システムと機能の試験アーキテクチャに関する新規勧告案(Q.3950)及びリソース制御プロトコルに関する改訂勧告案(Q.3303.3 v2)が合意された。
- ・NGN付加サービスプロトコル仕様として、発信者ID表示・規制(OIP/OIR)と着信転送(CDIV)のサービスプロトコル仕様の検討を提案した。
- ・平成24年7月に実施したITU後援HATS推進会議主催のNGN相互接続試験(VoIP、テレビ電話、IP-Fax等)の報告並びに今後の試験仕様の作成方針の提案を行った。

平成25年度の取り組み予定

- ・NGNなどのネットワーク接続での発信者ID通知/規制(OIP/OIR)、着信転送(CDIV)のサービスプロトコル仕様について、勧告化を目指す。
- ・NGNマルチメディア試験仕様について、テレビ電話試験仕様を前例に、効率的なテストモデルの提案等を行っていく。
- ・FN、IoT/M2M、Cloud、SDN等の新たな電気通信環境におけるプロトコルの検討およびインタオペラビリティ実現のための試験仕様の検討を行う。
- ・ICT適合性&相互接続性プログラム(C&I)のアクションプランを策定し、ITU-Tの活動を推進する。

19

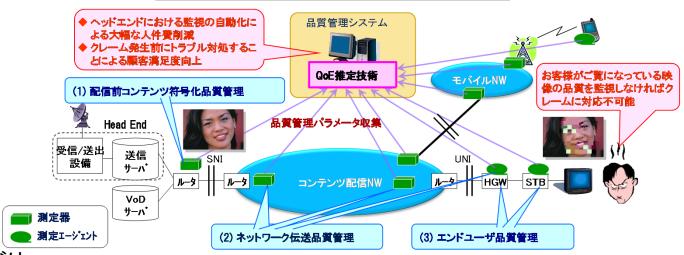
SG11の研究課題(2013~2016年)<15件>

WP	課題	課題タイトル
	Q1/11	Signalling and protocol architectures in emerging telecommunication environments
WP1	Q2/11	Signalling requirements and protocols for service and application in emerging telecommunication environments
	Q3/11	Signalling Requirements and Protocol for Emergency Telecommunications
	Q4/11	Signalling requirements and protocols for Bearer and Resource control in emerging telecommunication environments
WP2	Q5/11	Protocol procedures relating to services provided by Broadband Network Gateways
	Q6/11	Protocol procedures relating to specific services over IPv6
	Q7/11	Signalling and control requirements and protocols for network attachment supporting multi-screen service, future networks, and M2M
WP3	Q8/11	Guidelines for implementations of signalling requirements and protocols
	Q9/11	Protocols supporting distributed, smart service networking and end-to-end multicast
	Q10/11	Service and networks benchmarking measurements
	Q11/11	Protocols and Networks Test Specifications
	Q12/11	Internet of things test specifications
WP4	Q13/11	Monitoring parameters for protocols and emerging networks
	Q14/11	Cloud interoperability testing
	Q15/11	Testing as a service (TAAS)

第12研究委員会(SG12)「性能、サービス品質(QoS)及びユーザー体感品質(QoE)」

SG12 においては、PSTNによる電話サービスからモバイル/パケット網を介したマルチメディアサービスまでを対象とした、端末・ネットワークを含むQoS(Quality of Service)及びQoE(Quality of Experience)並びに性能を研究する委員会であり、WebサービスやIPTVサービスの要求品質及び評価方法等を検討している。

インサービス映像品質客観評価



<u>ビジネスとのつながり</u>

- ユーザ満足度の高いアプリケーションの作成指針やサーバ・ネットワークの監視方法を確立することにより、ユーザ満足度を向上させることができるだけでなく、これらの基準を満たすサービス・ネットワークの開発等が可能となる。
- インサービス映像品質客観評価技術をHGW (Home Gateway) やSTB (Set Top Box) に導入することで、IPTVサービスの品質をネットワーク上の品質管理システムで一元的に管理することが可能となり、ユーザ満足度を維持すると同時に、大幅な運用コストの削減が期待できる。

平成24年度の活動概要

- 映像配信の品質をパケットのヘッダ情報やビットストリーム情報(符号化情報)から推定する技術について、勧告P.1201.1(P.NAMS-LR)、勧告P.1201.2(P.NAMS-HR)及び勧告P.1202.1(P.NBAMS-LR)が合意された。
- Webアプリケーションに関する主観品質評価を規定する勧告(P.STMWeb)の草案が提出された。

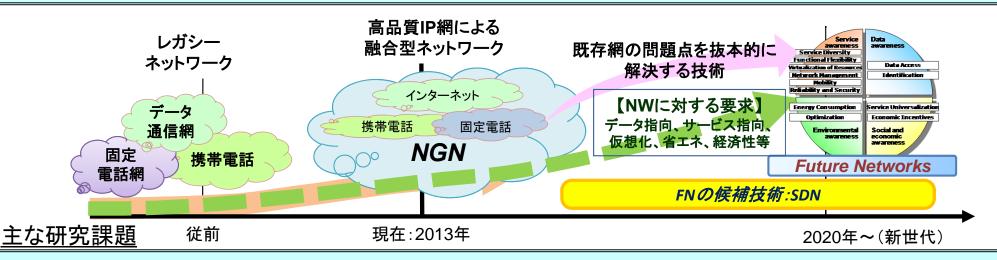
平成25年度の取り組み予定

- 今後発展が期待されるプログレッシブダウロード型映像配信サービスに対する品質推定技術に関する勧告(P.NAMS-PD)を構築していく予定となっている。
- Webブラウジングの品質特性に関する勧告(G.QoE-Web)の標準化に向け、ユースケースやWebブラウジングのQoEに影響を与えるパラメータの定義を まとめる予定となっている。

SG12の研究課題(2013~2016年)<17件>

WP	課題	課題タイトル
Dlanami	Q1/12	SG 12 work programme and QoS/QoE coordination in the ITU-T
Plenary	Q2/12	Definitions, guides and frameworks related to QoS/QoE
	Q3/12	Speech transmission characteristics of communication terminals for fixed circuit-switched, mobile and packet-switched (IP) networks
	Q4/12	Hands-free communication and user interfaces in vehicles
	QSGD	Quality of Service Development Group
WP1	Q5/12	Telephonometric methodologies for handset and headset terminals
VVII	Q6/12	Analysis methods using complex measurement signals including their application for speech enhancement techniques and hands-free telephony
	Q7/12	Methods, tools and test plans for the subjective assessment of speech, audio and audiovisual quality interactions
	Q10/12	Conferencing and telemeeting assessment
	Q8/12	E-Model extension in wideband transmission and future telecommunication and application scenarios
	<u>Q9/12</u>	Perceptual-based objective methods for voice, audio and visual quality measurements in telecommunication services
WP2	Q14/12	Development of parametric models and tools for multimedia quality assessment
	Q15/12	Objective assessment of speech and sound transmission performance quality in networks
	UIb/I/	Framework for diagnostic functions and their interaction with external objective models predicting media quality
	Q11/12	Performance interworking and traffic management for Next Generation Networks
WP3	Q12/12	Operational aspects of telecommunication network service quality
VVPS	Q13/12	QoE, QoS and performance requirements and assessment methods for multimedia
	Q17/12	Performance of packet-based networks and other networking technologies

現在のIP網の抜本的見直しを狙い、将来網(Future Networks)の検討が進められている。目的とデザインゴールを規定したY.3001が承認され、デザインゴールレベルの枠組み文書の勧告化が進められている。FNの候補技術としてSDN(Software defined networking)の検討も開始された。



・将来網: 既存網の問題点を抜本的に解決技術。SDNが候補技術。

・IoT: M2Mを包含し、様々なユースケースをサポートする汎用的なアーキテクチャを検討。

ビジネスとのつながり

標準化活動を通し、先進的なNW技術の検討とこれを利用したビジネス構築を推進する。また、IoT/M2M、クラウドといった新たなサービスをNWやHEMS等ホームNWサービスのアーキテクチャに取り込むことでそれらのビジネス化を後押しする。特に、HEMSについては我が国が推進しているECHONET Liteに基づくアーキテクチャを提案することで同規格の国際的認知度を高め、国際市場での日本の関連商品の競争力向上をはかる。

平成24年度の活動概要

日本としては、新世代ネットワーク推進フォーラムを中心に、将来網のビジョン(Y.3001)に準拠した将来網の勧告化を進めた。将来網の候補技術としてSDN(software defined networking)に着目し、検討を推進した。WTSAに向けて将来網の検討体制を拡充するため、課題21を3つの課題に発展的に再編することに貢献した。また、中国、韓国と連携しIoTの勧告化を促進し、更には、HEMSアーキテクチャの検討開始提案を行った。

平成25年度の取り組み予定

将来網の具現化を推進するため、SDNをはじめとする検討テーマの拡充を図る。IoT/M2M、クラウドなどの検討と連携し、NWアーキテクチャとの整合を推進する。また、HEMSアーキテクチャの勧告化を推進する。

第13研究委員会(SG13)「移動及びNGNを含む将来網」 ~クラウドコンピューティング~

ITU-Tでは、時限特設チーム(FGクラウド)の事前検討を踏まえ、SG13にて、 ITシステムと通信網の連携の観点から技術検討を継続している。H25年3月、クラウドのハイレベル要件等の3勧告を合意。

日本では、クラウド間の連携技術(Inter-cloud) がGICTFで検討されている。GICTF結果に基づき、当該技術の上位概念(利用例、要件等)はITU勧告Y.3501に盛り込まれ、今後は詳細仕様の標準化を目指す。

~H23年度

H24年度

H25年度

GICTF※(ホワイトペーパにより技術整理)

GICTFからの利用例等の提案

連携方式や交換情報等の詳細仕様







FGクラウド

SG13 WP3 (H24年度まではWP6)

※GICTF(Global Inter-Cloud Technology Forum グローバルクラウド基盤連携技術フォーラム):信頼性の高いクラウドシステムの実現を目指し、複数のクラウドシステム間の連携インタフェースやプロトコルの標準化を検討する民間任意団体



クラウド基本勧告群 (事例、概念、用語、 要件、アーキテクチャ等)



クラウド詳細勧告群 (IaaS, NaaS, intercloud等の文書)

<u>主な研究課題</u>

·laaS, NaaS, Inter-cloudなど各ユースケースをカバーするアーキテクチャを検討。

ビジネスとのつながり

inter-cloudの標準化活動を通し、異なるシステムや事業者間の通信可能性や相互接続性を向上し、大規模災害等にも対応できる安心安全なクラウド基盤を実現するとともに、事業者間空きリソースの有効融通によりクラウド市場の活性化を図る。

平成24年度の活動概要

Inter-cloudの上位概念を含めた勧告Y.3501の標準化を推進し、Inter-cloud詳細仕様の草案Y.ccicを立ち上げて議論を先導。

平成25年度の取り組み予定

H25年末Inter-cloudの詳細仕様を盛り込んだY.ccicの勧告化に目途をつけることを目標として検討を進める。

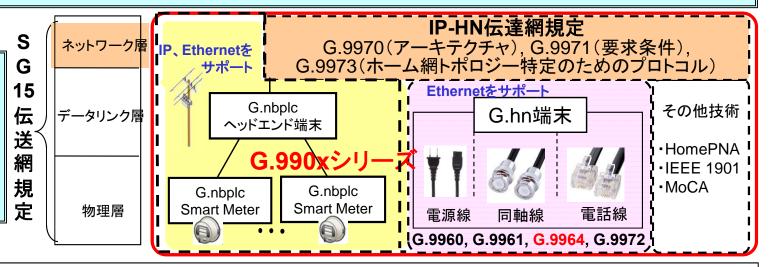
14/5	-m es	
WP	課題	課題タイトル
	<u>Q1/13</u>	Service scenarios, deployment models and migration issues based on convergence services
	<u>Q2/13</u>	Requirements for NGN evolution (NGN-e) and its capabilities including support of IoT
WP1	Q3/13	Functional architecture for NGN evolution (NGN-e) including support of IoT
	Q4/13	Identification of evolving IMT systems and beyond
	Q5/13	Applying IMS and IMT in developing country mobile telecom networks
	Q6/13	Requirements and mechanisms for network QoS enablement
	<u>Q7/13</u>	Deep packet inspection in support of service/application awareness in evolving networks
	<u>Q8/13</u>	Security and identity management in evolving managed networks
\A/D2	Q9/13	Mobility management
WP2	Q10/13	Coordination and management for multiple access technologies (Multi-connection)
	Q17/13	Cloud computing ecosystem, general requirements, and capabilities
	Q18/13	Cloud functional architecture, infrastructure and networking
	Q19/13	End-to-end Cloud computing service and resource management
	Q11/13	Evolution of user-centric networking and services, including interworking
ļ ļ	Q12/13	Distributed service networking
WP3	Q13/13	Requirements, mechanisms and frameworks for packet data network evolution
VVFS	Q14/13	Service-aware networking in future networks
	Q15/13	Data-aware networking in future networks
	Q16/13	Environmental and socio-economic sustainability in future networks and early realization of FN

SG15は光伝送網、アクセス網及びホーム網を扱っており、信号処理の高機能化や伝送システムの高速化を検討している。特に IPホーム網の伝送規定は、日本主導により勧告化を実現。また、スマートグリッド向け低速PLCトランシーバ勧告G.990xシリー ズに対して、日本向け仕様を盛り込んだ勧告化を実施中。

主な研究課題

- •IPホーム網: アクセス及びホーム網トラン スポート標準の調整。
- ・トランシーバ技術: ①高品質な高速ブ ロードバンド環境を提供可能な標準の 整備、②相互運用性或いは複数技術 間の共存可能性を実現するスマートグ リッド向け低速PLC標準の検討。

ビジネスとのつながり



- ・ホーム網における様々なネットワーク機器やサービス/プロトコルの連携。
- 既存配線網による高速ホーム網の実現と、スマートグリッドに向けた通信インフラの整備:①国内における広帯域電力線搬送通 信設備の屋外利用規制緩和の動きを踏まえたG.hn技術の成熟度向上(市場拡大後を想定した、管理・制御機能の整備等)を図 る。②低速PLC技術に関しては、JSCAによるスマートグリッド向け推奨伝送技術としてのG.9903の本格的な市場導入に向けた技術 の成熟度を目指すと同時に、グローバルな動きを踏まえつつ、次世代技術G.hnemや無線技術G.wnb等の標準整備を目指す。

平成24年度の活動概要

- ・HN端末遠隔管理を規定するG.9980/高速トランシーバ規定G.hnシリーズ(G.9961 Amd.1)/スマートグリッド用トランシーバ規定G.nbplc (G.9901[PSD/周波数規定]/G.9902[G.hnem]/G.9903[G3-PLC]/G.9904[PRIME-PLC])の制定。
 •TTC次世代ホームネットワークシステム専門委員会と連携した、スマートグリッド向け低速PLC(G3-PLC)日本向け仕様の標準化。

平成25年度の主な活動予定

- ・運用に向けた、G.9960 Annex C(日本向け仕様)における仕様未定事項の検討及び提案。
- ・スマートグリッド向け低速PLC G.9902(G.hnem)、G.9903(G3-PLC)に対する新規機能の検討及び提案。
 ・Q15(スマートグリッド向け通信)及びQ18(ブロードバンド向け宅内ネットワーク用送受信器)となった次会期体制の中での継続 した取り組み。

SG15WP2は光伝送網の物理層(陸上・海底光システム、光部品、ファイバ、ケーブル、屋外設備、敷設、保守)を検討している。特に波長多重化、超高速化(40 Gb/s、100Gb/s、QAM等の新規変調方式)に対応した陸上系システム特性および光インターフェース、FTTxの促進に向けた光ファイバケーブルの特性・試験・保守に関する勧告の制改訂に注力している。

主な研究課題

- ・陸上光システム: 超高速化(100Gb/s、QAM等の新規変調方式)に対応したシステム 特性の勧告化
- ・光ファイバ: 大容量NW向け、並びにアクセス NW向け光ファイバの特性と試験法の 勧告化
- ・屋外設備: FTTxの促進に向けた光ファイバケーブルの特性・試験・保守に関する 勧告化

課題7:光部品 課題6:陸上システム 10G化 PON用光スプリッタ 10G→40G,100G化 **外ロコア** 課題17:保守•運用 (DWDM) 長距離コア(DWDM) **メトロアクセス** (CWDM, DWDM) 低曲げ損失ファイ バケーブル 課題5:ファイバ ■ 課題8:海底システム システム試験方法 課題16:ケーブル 海底システム

ビジネスとのつながり

高速・大容量化とFTTxの促進に寄与する、システムインターフェイス、線路物品仕様、及び試験・保守技術の標準化により国内技術の海外展開を推進すると同時に、新規技術の提案により新たな市場を創出する。

平成24年度の主な活動概要

- ・G.664(光伝送システムの安全性機能と要求条件)に、アクセス網向けRaman reach extenderの安全性を追記(課題6)
- ・G.672(多方路RODAM(Reconfigurable Optical Add/Drop Multiplexer)用光部品)を新規勧告化(課題7)
- ・G.654(カットオフシフトファイバ)に、低損失・MFD(光ファイバのコア部の直径)拡大型の新規カテゴリ(Category D)を追加し改訂(課題5)
- ・G.657(低曲げ損失光ファイバ)に関し、カテゴリ間のMFD不整合を解消し多光路干渉の試験法を文書化(課題5)
- 屋外設備における災害マネジメント勧告をL.91として新規勧告化(課題17)

平成25年度の主な活動予定

- ・DWDM(Dense WDM:高密度波長分割多重)システムにおけるOSNR(光信号対雑音比)モニタ方法や新規変調方式に対応したインターフェース仕様についての勧告化の推進
- ・光部品の仕様規定法に関する明確化(IEC仕様との整合性)及び運用時光コネクタ端面劣化規定に関する検討(L.36改訂)
- ・光ファイバ勧告G.652およびG.657のカテゴリ体系の見直し、光ファイバケーブル網保守・運用勧告制定の推進

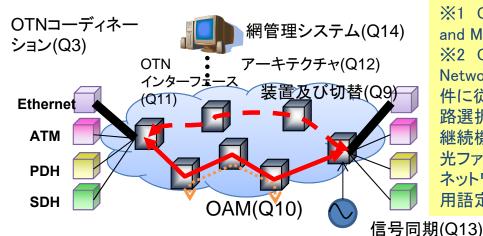
第15研究委員会(SG15)「光伝送・アクセス網基盤」~ トランスポートNW (SG15WP3関連)~

SG15/WP3は光伝送網構成(論理層)を扱っており、網アーキテクチャ、装置機能と管理、OAM^{※1}、インターフェース、プロテクション(切替方式)、信号同期等について検討している。特にOTN^{※2} 伝送網(100G級超高速信号伝送)、パケット伝送網(Ethernet, MPLS-TP等)について他標準化団体(IETF、IEEE、MEF等)と連携を取りながら進めている。

主な研究課題

•光伝送網構成(論理構成):

網アーキテクチャ、装置機能と管理、 OAM、インターフェース、プロテクション (切替方式)、信号同期等の標準化検討



※1 OAM(Operation, Administration and Maintenance): 保守運用機能 ※2 OTN(Optical Transport Network): G.872に定められた要求条件に従い、転送機能・多重機能・経路選択機能・管理機能・監視機能・継続機能等を提供することができる、光ファイバリンクにより接続された光ネットワーク要素の集合体(G.870の用語定義による)

<u>ビジネスとのつながり</u>

世界的な大容量・低コストかつ高信頼・柔軟なネットワーク技術への需要を背景に100G又は100G超級の超高速信号伝送や高度 化Ethernet、MPLS-TP等のパケットトランスポート技術、パケット網同期技術の発展と標準化が期待されており、我が国の技術の 国際標準への反映を図り、国内技術の海外展開を推進する。

平成24年度の主な活動概要

- •MPLS-TP関連勧告化推進(アーキテクチャG.8110.1, 一般装置機能G.8121)とOAM勧告(G.8113.1&2)のWTSA-12承認
- Ethernet関連勧告化推進(サービスG.8011,インタフェースG.8012.1等)
- ・パケット網のクロック同期関連勧告G.826xと時刻位相同期関連勧告G.827xシリーズ推進、PRTC同期G.8272勧告化
- •OTN 機能拡張関連勧告化推進 (メッシュプロテクションG.808.3,ODUflex G.7044, GFP G.7041)と次期Beyond 100Gの議論

平成25年度の主な活動予定

- ・MPLS-TP関連勧告化推進(プロテクション、管理情報、プロトコル依存型装置機能等)
- ・OTN関連勧告化推進(Beyond 100G、NWアーキテクチャ、シェアードメッシュプロテクション、プロテクション相互接続等)
- ・Ethernet関連勧告化推進(アーキテクチャ拡張、サービス等)
- ・クラウドサービスやSDNに対応する新たなトランスポートNWアーキテクチャの検討
- ・パケット網における時刻位相同期関連勧告G.827xシリーズの勧告化推進

WP	課題	課題タイトル
WP1	Q1/15	Coordination of access and Home Network Transport standards
		Optical systems for fibre access networks
	Q2/15	
	Q4/15	Broadband access over metallic conductors
	Q15/15	Communications for Smart Grid
	Q18/15	Broadband in-premises networking
WP2	Q5/15	Characteristics and test methods of optical fibres and cables
	<u>Q6/15</u>	Characteristics of optical systems for terrestrial transport networks
	Q7/15	Characteristics of optical components and subsystems
	<u>Q8/15</u>	Characteristics of optical fibre submarine cable systems
	Q16/15	Outside plant and related indoor installation
	Q17/15	Maintenance and operation of optical fibre cable networks
WP3	Q3/15	General characteristics of transport networks
	Q9/15	Transport network protection/restoration
	Q10/15	Interfaces, Interworking, OAM and Equipment specifications for Packet based Transport
		Networks
	Q11/15	Signal structures, interfaces, equipment functions, and interworking for transport networks
	Q12/15	Transport network architectures
	Q13/15	Network synchronization and time distribution performance
	Q14/15	Management and control of transport systems and equipment

第16研究委員会(SG16)「マルチメディアサービス・アプリケーション」

- ・TV電話の標準化を発端とし、画像・音声・データが混在した通信であるマルチメディアサービスの標準化を担当。
- ・画像符号化(MPEG)については、ISO(国際標準化機構)の副委員会(SC)と合同のJCT(Joint Collaborative Team)を設置して合同で勧告化作業を実施。

主な研究課題

- ・IPTV: アプリケーションと端末の観点から相互運用等の標準化を推進。
- ・デジタルサイネージ: 災害時の情報提供機能に関する 要求条件を検討。
- e-health: 途上国での展開を容易にするため、通信プロトコル等の勧告化を目指す。
- ・ITS: 自動車内のネットーワーク化を中心に、ITSを研究 対象とする。

ビジネスとのつながり

- ・IPTV: 我が国提案の技術であるLIME(Lightweight Interactive Multimedia Environment)等により、途上国等、導入が遅れている地域での立場を確保
- •E-health: 標準規格化を推進し、医療資源が乏しい途上国での展開と、我が国の製品展開を推進

平成24年度の活動概要

- •2012年11月20~29日にドバイで開催された、世界電気通信標準化 総会(WTSA-12)において、我が国(OKI、三菱電機、NTT)がIPTVおよびe-health システムのデモを実施。
- ・スーパハイビジョン画像符号化の基幹技術である「HEVC(High Efficiency Video Coding)」について、2013年1月の会合で勧告化を同意し、本年4月 に勧告成立。

平成25年度の取り組み予定

- ・IPTVについてはHTML5、HEVC等、最新技術の導入、デジタルサイネージは災害情報サービス利用時の各種要求条件、HECVは放送局機材、番組中継伝送用の技術についてそれぞれ勧告化作業を実施。
- ・その他デジタルサイネージ・e-health等含め、ITUに限らず幅広い国際イベントにおいて我が国の技術を紹介予定。

WP	課題	課題タイトル	
Plenary	Q20/16	Multimedia coordination	
WP1	<u>Q1/16</u>	Multimedia systems, terminals and data conferencing	
	<u>Q2/16</u>	Packet-based conversational multimedia systems and functions	
	Q3/16	Multimedia gateway control architectures and protocols	
	Q5/16	Telepresence systems	
1	Q21/16	Multimedia framework, applications and services	
	Q13/16	Multimedia application platforms and end systems for IPTV	
	Q14/16	Digital signage systems and services	
WP2	Q25/16	IoT applications and services	
VVFZ	Q26/16	Accessibility to multimedia systems and services	
	<u>Q27/16</u>	Vehicle gateway platform for telecommunication/ITS services/applications	
	Q28/16	Multimedia framework for e-health applications	
	<u>Q6/16</u>	Visual coding	
	<u>Q7/16</u>	System and coordination aspects of media coding	
	Q10/16	Speech and audio coding and related software tools	
WP3	Q15/16	Voiceband signal discrimination and modem/facsimile terminal protocols	
	Q16/16	Speech enhancement functions in signal processing network equipment	
	Q18/16	Implementation and interaction aspects of signal processing network equipment/terminals	

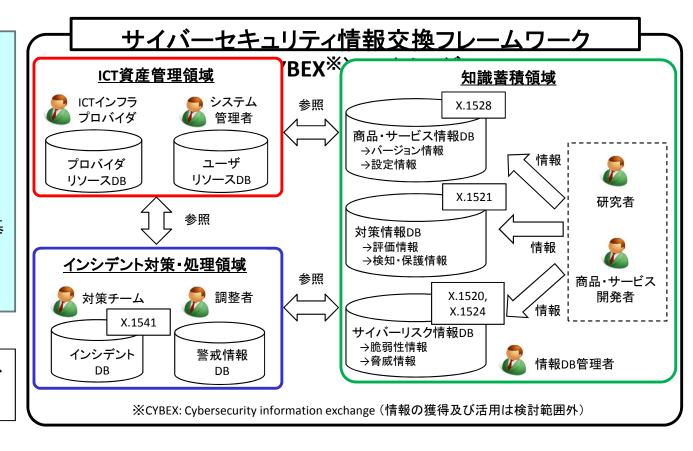
・サイバーセキュリティ、クラウドコンピューティングセキュリティ、ID管理等に関する標準化を担当。

主な検討課題

- ・サイバーセキュリティ: ネットワークに対する攻撃への 対応等を検討。具体的には、通信事業者間でのサイ バー攻撃情報の交換(CYBEX)や、攻撃発信者特定のた めのトレースバック等。
- ・クラウドコンピューティングセキュリティ: クラウドコン ピューティングセキュリティを向上させるためのサービス プロバイダー等関係者向け勧告案等について、SG13と 連携しながら検討。
- ・ID管理: ID管理のためのフレームワーク、要求条件や基本的なアーキテクチャを検討。具体的には、ID管理システムの相互接続、通信事業者へのID割り当て、ID管理システムに対するサイバー攻撃からの防御方法等。

ビジネスとのつながり

安全・安心なICT環境を維持するため、CYBEXによって、 脆弱性情報やインシデント情報等を異なる組織間でも標 準形式によって効果的に共有し、入手可能となる等。



平成24年度の活動概要

- ・サイバーセキュリティでは、CYBEXの検討が進められ、平成23年度中に、X.1500(CYBEX基本フレームワーク)等、6件の勧告が承認されたことを踏まえ、平成24年度も検討を継続し、X.1528(共通プラットフォームー覧)、X.1541(インシデント情報交換フォーマット)、X.1580(リアルタイム防御)、X.1581(リアルタイム防御情報の伝送)が承認されるなど、合わせて10件以上の勧告を承認。日本もNICT等を中心に貢献。
- ・クラウドコンピューティングセキュリティでは、課題8の名称を「サービス指向アーキテクチャ」から「クラウドコンピューティングセキュリティ」へ変更する ことが合意され、検討体制が整えられた。
- ・ID管理では、X.1254(エンティティ認証の保証枠組み)を承認。

平成25年度の取り組み予定

・引き続き、各課題において、貢献していく予定。

WP	課題	課題タイトル
	Q1/17	Telecommunication/ICT security coordination
	<u>Q2/17</u>	Security architecture and framework
	Q3/17	Telecommunication information security management
	Q4/17	Cybersecurity
	Q5/17	Countering spam by technical means
	<u>Q6/17</u>	Security aspects of ubiquitous telecommunication services
	<u>Q7/17</u>	Secure application services
	<u>Q8/17</u>	Cloud computing security
	Q9/17	Telebiometrics
	Q10/17	Identity management architecture and mechanisms
	Q11/17	Generic technologies to support secure applications
	Q12/17	Formal languages for telecommunication software and testing

Review Committee / TSAG「ITU-Tの見直し/SG横断的課題への対応」

Review Committee

✓ 情報通信技術の急速な進展や市場ニーズの変化にタイムリーに対応し、ISO/IEEE等の国際標準化機関・団体における検討状況 等も考慮しながら国際標準化活動を進めていくことが必要となっている。このような中、他機関との連携、協力及びITU-Tにおける 将来の国際標準化の検討体制等を検討。

TSAG(電気通信標準化アドバイザリグループ)

✓ ITU-Tにおける標準化活動の優先事項、計画、運営、財政及び戦略を検討。Internet of Things(IoT)、スマートグリッド、クラウンドコンピューティング、Machine to Machine(M2M)、災害対策など、SGに横断的な課題を検討するため、FG、JCA、GSIを設置し、ITU-Tにおける検討体制の確立等の作業プログラムを検討。

ビジネスとのつながり

- ✓ 国際標準化(勧告化)作業の更なる効率化の検討。
 - AAP(代替承認手続での多数決制の導入等)
- ✓ 他の国際標準化機関・フォーラムとの連携促進。
 - 共同による勧告化作業等、重複作業の削減。

平成24年度の活動概要

- ・2012年11月20~29日にドバイで開催された、世界電気通信標準化 総会(WTSA-12)に向けた決議案の検討を実施。
- ・災害救援へのICTの利用及び耐災性向上について検討する災害FG、途上国で起きている標準化ギャップを改善するICTイノ ベーションFGを設置。
- ・2011年12月に終了したスマートグリッドのFGを引き継ぐ形で、ホームネットワークのJCAをスマートグリッドとホームネットワーク 全般を扱うJCAに再編。

平成25年度の取り組み予定

- ・Review Committeeは6月3日に第1回会合を開催し、検討課題の抽出等に着手。
- ・TSAGはWTSAの終了により、当面年1回の開催となり、次会は6月4日~7日に開催。